

神戸研究学園都市大学交流推進協議会における 高大連携の取組について

神戸研究学園都市大学交流推進協議会

(一) ユニティ実施事業の概要

神戸研究学園都市大学交流推進協議会（愛称：ユニティ）は、神戸市西部に位置する神戸市営地下鉄学園都市駅を中心に約〇・五～一・〇キロの近距離内にキャンパスがある五大学・一高専で組織し、学生数約一万二〇〇〇名の大学コンソーシアムである。これら五大学・一高専は、アート・デザイン、外国語・外国学、経済・経営、流通・マーケティング・実学、理工学、看護など専門分野の異なった特色のある大学である。

ユニティの活動は、これら大学が連携して、集積のメリット及び分野の専門性の活用により大学間の相互補完を行い教育の充実及び地域に開かれた大学の実現を図ることを目的とするものである。

そのための中心施設として「大学共同利用施設」（床面

積一七〇〇平方メートル）を設置して、この施設を拠点として平成一一年度より、①単位互換講座、合同企業説明会等学生の教育及び学生サービスの充実、②高大連携講座③加盟大学教員の共同研究への助成及び交流の推進、④公開講座、共同研究成果の発表等市民への学術・文化の発信及び地域コミュニティ育成という四本柱を基本事業として着実に事業を実施し実績をあげてきている。

高大連携講座は平成一五年度から開始し、「高校生を対象とした高大連携講座→大学生の単位互換講座→社会人を対象とした公開講座の充実」により、「誰でもいつでも自らの選択で学べる」ユニバーサル・アクセスの実現が可能になった。

【神戸研究学園都市大学交流推進協議会加盟大学】

神戸芸術工科大学、神戸市外国語大学、兵庫県立大学神戸学園都市キャンパス・明石キャンパス、流通科学大学、神戸市立工業高等専門学校、神戸市看護大学

(二) 高大連携講座の取組

平成一五年度から高等学校生徒の学習機会の拡大、進路に関する情報提供及び地域に開かれた大学の実現を目指して高大連携講座に取り組んできている。

この高大連携講座の特徴は、加盟大学が位置する神戸第三学区の全高等学校の生徒（公立一四校、私立二四校）を対象として、単位互換講座のうち高校生の受講が適切な科目を大学生と同一条件で机を並べて受講できることである。

平成一五年度に、公立高校一四校と協定を結んでスタートし、平成一六年度には私立二四校のうち希望のあった五校と協定を結び、現在一九校との間で「高大連携講座」を実現している。平成一五年度から取組を始めて平成一七年度の三年間で二八八（一五年度・三八名、一六年度・四八名、一七年度・四一名）の高校生が受講している。

(三) 高大連携講座の実施状況

平成一七年度の高大連携講座は、提供科目二四科目（表1）に四二名（男子一四名、女子二八名）の履修登録があり四一名に受講修了証を交付した。学年別では、二年生が二三名、三年生一九名であった。高大連携講座の実施状況及び感想を高校生、担当教員、一緒に勉強する大学生のアンケート調査からみることにしよう。

まず高校生であるが、「受講した理由」は、

- ①自分が関心を持っている分野の授業である（三二・四％）
- ②大学の授業に興味がある（二四・三％）
- ③志望している分野の大学に触れられる（二六・二％）
- ④教養や知識を身につけることが出来る（二〇・八％）
- ④高校の単位に認定される（二〇・八％）

などとなっている。

「志望理由は満たされましたか」との問いについては、①興味を持って受講できた（七五・七％）と圧倒的に志望理由が満たされたと答えている。

「受講しての感想は」（複数回答）については、

- ①高校にはない分野の授業や専門的な授業を受けられた（八九・二％）
- ②大学の先生の授業を受けることが出来た（六二・二％）
- ③難しかったが授業は興味を持って受講できた（五四・一％）
- ④大学生と一緒に授業を受けることで刺激を受けた（四五・九％）
- ⑤担当の先生の大学に親しみを持った（四三・二％）
- ⑥進路を考える参考になった（四〇・五％）

などと進路選択のためだけでなく大学の先生、授業や学問そのものにも興味を掻き立てられているようである。

否定的な感想としては、

- ①知らない人ばかりのため緊張した（二九・七％）
- ②授業内容が自分の考えていたものと違っていた（二八・九％）
- ③授業が難しくて理解出来なかった（一八・九％）

という意見もあった。高校生と一緒に授業を受けている大

表1 平成17年度高大連携講座提供科目一覧

曜日	期間	科目名	単位	担当大学	担当教員
月	通年	経営情報概論	4	兵庫県立大(神戸商大)	有馬教授
	前期	医療経済学	2	流通科学大	中島講師
	前期	応用倫理学	2	神戸高専	手代木助教授
	後期	女性と世界	2	神戸外大	長助教授・浜崎助教授
	後期	観光地理学	2	流通科学大	白石教授
火	前期	メディア文化論	2	神戸芸工大	今村助教授
	前期	地域学方法論Ⅰ	2	神戸外大	並河助教授
	前期	経営文化論—日米比較文化考	2	兵庫県立大(神戸商大)	大西講師
	前期	比較企業論	2	流通科学大	上田教授
	前期	地域学	2	神戸高専	八百助教授
	後期	英語学概論Ⅱ	2	神戸外大	菅山教授
	後期	地域学方法論Ⅱ	2	神戸外大	並河助教授
	前期	英語学特殊講義b	2	神戸外大	山口助教授
水	前期	女性と女性の健康	1	市看護大	高田教授
	通年	知的財産権の法と経済学	4	神戸外大(協力) 神戸高専	田中教授(協力) 橋本教授(神戸高専)
木	通年	異文化コミュニケーション論(特講)(多文化コミュニケーション論)	4	兵庫県立大(神戸商大)	松田教授
	前期	環境・建築デザインとは(環境デザインとは)	2	神戸芸工大	杉本教授・小玉教授・齊木教授・木村教授
	前期	英米法Ⅰ	2	神戸外大	植田教授
	前期	貿易政策	2	流通科学大	岡島助教授
	前期	技術史	2	神戸高専	中辻教授
	後期	英米法Ⅱ	2	神戸外大	植田教授
	前期	ハードウェア概論(ハードウェア)	4	兵庫県立大(神戸商大)	秋吉教授
金	前期	経営史	4	兵庫県立大(神戸商大)	梅野教授
	後期	企業評価論B	2	流通科学大	菊池教授

表2 高大連携講座システムの概要

(1) 目的	①高等学校生徒の学習機会の拡大 ②進路選択に関する情報提供 ③社会的要請である開かれた大学の実現
(2) 連携の方式	①ユニティの単位互換科目の特別科目を高校生に公開する。 ②出席は、大学が確認し、3分の2以上の出席者に「受講修了証」を発行する。(理事長と提供大学長の連名) ③単位の認定は、高等学校が行う。
(3) 提供科目	単位互換科目の特別科目で大学が認めた科目
(4) 授業時間	原則として16:30~18:00、18:15~19:45 集中講義も可とする。
(5) 受講許可	高校が推薦した生徒で各科目5名以内 ※受講可能科目数—原則として前期、後期、通年のいずれか1科目
(6) 受講料	当面は、試行期間とし、「無料」とする。
(7) 連携高校	原則として第3学区内の公立及び私立高校

学生の意見(自由回答)であるが、

- ①高校生の大学での雰囲気や授業を体験できるのは良いことだ
- ②高校生の受講する姿を見て良い刺激を受けた
- ③自分も高校生のときに受講したかった

なごと圧倒的多数の大学生が好意的に受けとめており、また、大学生の勉学意欲にも良い刺激を与えているようである。また、担当教員のアンケート(自由回答)では、

- ①高校のカリキュラムと大学の授業のギャップがよくわかり大学一、二年の授業を準備する参考になった
- ②高校生もプレゼンテーションやディスカッションに活発に参加してもらった。ディスカッションでは、年齢の違いによる考えや価値観の違いがお互いの刺激になり学びが多かった
- ③科目の専門性を引き下げずにわかりやすい話をしようとしたのですが結構大変もあり、また、それなりに楽しむことも出来た
- ④熱心に受講していて、積極的に質問してくれた
- ⑤大学生にも良い刺激となっている

等、授業にはかなりの工夫が必要としながらも積極的に取り組んでいくべきとしている。

兵庫県立北須磨高校二年生で高大連携講座を受講し、本年度神戸市看護大学に入学した和田沙弓さんに受講した動機、受講しての感想などについて話してもらった。

○高大連携講座を受けた動機は……

↓高校一年生のとき祖父が病気で入院し、お見舞いに行っていたときに看護師の仕事を見て看護師に関心を持つていました。その

後、高校一年生の終わり頃に高大連携講座の募集が教室に掲示されているのを見て、神戸市看護大学が提供している「女性と女性の健康」のシラバスを読み興味を持ったので申し込みました。

○高校の授業のほかに授業時間外に高大連携講座を受けるのは大変ではありませんでしたか……

↓高校でサッカー部のマネージャーをしていたのですが、一週間のうちの一日を高大連携講座にあてることにしたので、時間外の授業でしたがクラブ活動の延長という感じで苦痛には感じませんでした。

○授業を受けてみての感想は……

↓担当の神戸市看護大学の高田昌代先生の授業は、毎回プレゼンテーションやディスカッションに積極的に参加を求められる授業で、それが高校の授業と違ってすごく楽しく受講しました。そして、授業の中に出てくる看護の専門的な事柄に強く興味を感じて、看護大学に進みたいと強く思うようになりました。学力的に受かる自信はなかったのですが、「看護」へのきっかけを作ってくれたのが神戸市看護大学の高田昌代先生でしたので、是非とも先生の大学に進学したいと思って受験勉強をしました。

今年度で高大連携講座を開設して四年目を迎えている。アンケート調査によれば初期の目的を比較的順調に実現していると考えられる。しかし、さらに多くの高校生に受講してもらい、高校生の勉学や進路選択等に役立つとともに、講座を提供する大学及び大学生の活性化にも資するように、高校との連携をより緊密にして今後の発展に努力していきたいと考えている。